

明日を拓く



Ｉターンして奥畑で暮らされている森本哲也さん。

地元の出身だと思っっている方もいらっしゃるようです。濃厚にして芯の強い社交家である森本さんに町の定住対策についてお聞きしました。

いつから自営されましたか？

去年の4月からです。Ｉターンしたのは13年前だったと思います。だいぶ紆余曲折がありました。

はじめに町内の農産施設でトマトの栽培技術を習得し、農業法人で社員として働いていました。縁あって昨年宇山地区の空きハウスをお世話していただき、生産を始めました。

農地確保までに時間がかかったようですが…

農業の部分で行政からの支援は受けられませんが、奥畑に永

く住んでいるので、地域の人から農業以外の部分でかなりの支援を受け感謝しています。

研修期間が終わると、町を出て行く人もいますが、わたしの場合は地域とのつながりがあったので、農地の確保ができない期間が長かったのに居続けることができました。



お話を伺った森本さん

就農する上で何が必要ですか？

飯南町にＩターン者が来るところまではよくできていると思うんですが、就農しようとするところで問題が出て来ます。労働集約型のハウスが2〜3棟でも確保できれば、それから先につながつていきやすいと思いますね。

今までに農地の確保ができず、やる気のある人達が出て行ってしまった例があります。研修の

部分は良いのですが、それから先が見えなくて断念している現状があります。

どうすれば定着しやすいと思いますか？

Ｉターン者は借金ができないんです。この条件が整わないので、何とかする仕組みが必要だと思います。たとえば、25年住めば自分のものになる賃貸住宅の制度がありますが、ハウスにも同じような制度ができれば、私たちでもハウスが持てるのではないのでしょうか。

町への提案は？

集落営農や法人は、Ｕ・Ｉターン者を受け入れても出口の部分が見えていないことで不安があり、なかなか雇うことができません。受け入れた人をこれからどうしたらよいか見えていれば受け入れやすくなると思います。

住むところが必要。この町には不動産屋さんがないから、住むところを探すことができないんです。

若い人が気楽に住める場所があれば、都会なんかに行かずここに住む人はかなりあると思います。

今月の表紙写真



「実に栄養が届くよう、いらん葉は取るんよ。」と、ハウス栽培トマト圃場で摘葉指導しているのは上来島の山下さん。神戸市からＩターンして、この春から就農される中野さんには園芸作物のベテランから聞く一つ一つの話がお宝です。中野さんはパブリカ栽培をメインに圃場作りを進められているようですが、人気のあるトマト栽培にも関心を示されています。市場を考えた新しい農作物のスタイルが、ここにも芽を出しそうです。

編集後記

平成26年度第一号の議会広報をお届けしました。最後までお読みいただき、ありがとうございます。

3月定例町議会では、バス購入にかかわる不祥事など、いくつかの問題点が明らかになりましたが、今後このようなことが絶対に起きないよう、執行部には厳重に注意を促したところです。

これからも予算の執行、行政態度には十分な注意を払って議会活動すすめていきます。皆様のご指導とご協力をよろしくお願いします。

お気づきのことがございましたら、各議員、議会事務局まで何なりとお問い合わせください。

暖かくなり、農作業などが忙しくなります。事故などが起きないように十分お気をつけください。

議会広報編集委員会 伊藤 好晴